

花の物語

國定教科書挿畫事務囑託
日本女子大學囑託

吉 田 力

花の物語といふのは色々な花が子供になつてそれづくに自分自身を語り出す所のお伽繪話であります、さて草木の花を愛して樂むといふことは古今東西を通じて大人も小供も同様であります、總て幼兒が花に對するの愛着は又格別であつて其の花と共に無我無心になる所に所謂自然の審美が宿り且つ此れより來る教育的思想涵養の利益は至大至廣であることは申す迄もないのであります。

今花の物語と題したる一種のお伽繪話を世に公にする所以のものは彼の色々な花と幼兒との關係を極く趣味ある方法のもとに幼兒教育上にまで適切有效たらしめんとしつ希望でありまして私が從來幼稚園用掛圖類に研究を加へたるもの、中の一つであります、理論としても亦實際から視ても頗

る面白いものと思ふのであります。

日本でも外國でも廣く繪入りのお話が歡迎されることは事實が既に證明して居ますが彼の幼稚園兒の頭腦に科學上の知識を眞面目に説明して徒らに理解に苦ましめるなどは害があつて益のないことですから花物語の如きも幼兒の愉快なる興味心に投合して其の語彙を覺えしめ又形や色などの自然美から知らず識らずの間に觀察力や想像力などを精密に且つ旺盛に發達せしめ得て其處に眞の教育の効果を擧げるといふ方法でありますから此の花の物語で彼の花の種類をそれづく男女の幼兒に凝し春の櫻は一重を男、八重を女、夏の菖蒲は男秋の菊は白と黃を男で赤を女、冬は山茶花、水仙といった様に圖畫と談話で面白く眼と耳とより來る各

種の快感を併せ得しむる事となし、幼児の自動力を程度としたるお伽繪話の妙味を十分に味はせたいのであります。

美しい花其物が可愛い幼児となつて自分の身の世話をするのですから其れらの話をして居る間に愉快にお伽話的興味を増進して一面其話の主人公をして十分に活躍させることが出来るのだから先づ主要なる四季の花物語から初めて漸次西洋草花類の名稱特色までも容易に幼児達の腦底にまで沁みこましめることが出来るのであります。

今簡單に其一例を申し上げますと先づ此れから季節に向く物で亞米利加等の各幼稚園で所謂キングダーガーデンフラワーと言はれて大に愛玩されて居る彼の雛菊の花の物語(圖畫を略す)とすれば其の可憐なる雛菊の花が可愛い女の兒になつて自分の性情や境遇や歴史やらを面白く物語るのであるからして其花の實際の觀察から來る所の理智の啓發は勿論として此れに要する材料にはなるべく實物を見せ又其花の寫生畫を活用して、さて其花の栽培せられたる光景を背景となしたる掛圖中へ其花

の精ともいふべき幼兒を描き雛菊模様の被服で適應の容姿をして居る美しい所を展開すれば彼此相俟つて忽ち興味律々たるお伽繪話の花物語となるのであります、即ち視官から來る美感と聽官から起る快感とを十分に發揮させることが出來て斬新なる趣味豊富のお伽話となるのであります。

斯くて實物の觀察力から種々の想像力も發達され得るばかりでなく其間に於いて實物と寫生畫より來る所の美的修養ともなり且又繪畫の模様化されたり圖案化されたりする所に藝術的妙趣をも會得せしむる事になるのであるから其配合や變化やらで一舉にして活きたるお伽繪話と成るのです。

此様なる希望目的からして此種の新案お伽繪を幼稚園及家庭用として掛圖或は小冊子となすことにしたので季節に應じて續々活用するとなれば多數の幼兒に接しての實驗から又彌々此れが研究を重ね益々改善を加へることも出來ると信じますので私は特に此處に完成に先ちて以上の希望と實用の一般を申述べたる次第でありますから大方諸氏の御批判をも歓迎して退まぬものであります。